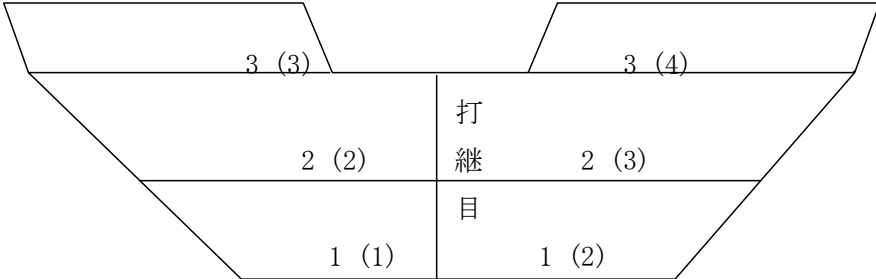
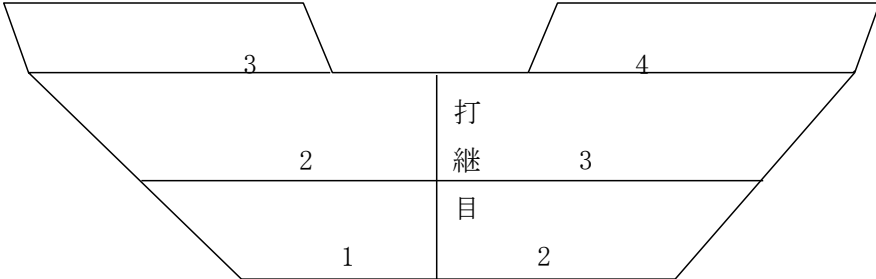


改正後	改正前
-----	-----

<p>II 設計積算</p> <p>1. ～ 2. [略]</p> <p>3. コンクリート (1) ～ (5) [略]</p> <p>(6) コンクリートの日打設量 設計では1リフト高は2.0m（最大高さ）を標準とし、打設回数は打設設計計画図を作成して決定する。鉛直打継目がある場合、無い場合とも打設できる組合せ最少回数で積算し、変更設計はしない。 計算式 設計日打設量＝総体積÷打設回数 例) 打設設計計画図（※括弧書きは交互に打設をする場合）</p>  <p>(7) 木製残存型枠工（軽量鋼製枠複合式） ① 定義 木製残存型枠工（軽量鋼製枠複合式）（以下、「木製型枠工」という）と</p>	<p>II 設計積算</p> <p>1. ～ 2. [略]</p> <p>3. コンクリート (1) ～ (5) [略]</p> <p>(6) コンクリートの日打設量 設計では1リフト高は2.0m（最大高さ）を標準とし、打設回数は打設設計計画図を作成して決定する。鉛直打継目がある場合、無い場合とも打設できる組合せ最少回数で積算し、変更設計はしない。 計算式 設計日打設量＝総体積÷打設回数 図・例) 4回打設の場合</p>  <p>(10) 残置式木製（間伐材）型枠工 ① 定義 残置式木製（間伐材）型枠工（以下木製型枠工という）とは、押角材</p>
--	--

治山設計技術等細部基準（公表用） 新旧対照表

改正後	改正前																																																				
<p>は、軽量の鋼製枠を支柱とし、型枠材である平割材を積み上げるように取り付けられた構造物をコンクリート型枠として利用する工法である。</p> <p>② [略]</p> <p>③ 設置歩掛（100 m²当たり） 撤去歩掛（100 m²当たり）</p> <table border="0"> <tr> <td>土木一般世話役</td> <td>2.40 人</td> <td>土木一般世話役</td> <td>1.20 人</td> </tr> <tr> <td>型枠工</td> <td>4.50 人</td> <td>型枠工</td> <td>2.25 人</td> </tr> <tr> <td>普通作業員（山林砂防工）</td> <td>8.50 人</td> <td>普通作業員（山林砂防工）</td> <td>4.25 人</td> </tr> <tr> <td>諸雑費</td> <td>15.0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>内部支持材</td> <td>100.0 m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平割材</td> <td>4.8 m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※リフト高 2 m までの歩掛となるため、2 m を越える場合は見積対応となる。</p> <p>※ 諸雑費率は、組立支持材（セパ鉄筋）及び電気ドリル、電動ノコギリ損料、電力に関する経費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額とする。</p> <p>④ 資材規格及び重量</p> <table border="0"> <tr> <td colspan="2">内部支持材（軽量鋼製枠複合式仕様）</td> </tr> <tr> <td>SPHC-P、エポキシ樹脂カチオン電着塗装処理</td> <td>0.44t/100 m²</td> </tr> <tr> <td>平割材 県産材（スギ）厚 45mm×幅 90mm L=4000mm</td> <td>3.22t/100 m²</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(4.8 m³/100 m²×670kg/m³=3,216kg≒3.22t)</td> </tr> </table>	土木一般世話役	2.40 人	土木一般世話役	1.20 人	型枠工	4.50 人	型枠工	2.25 人	普通作業員（山林砂防工）	8.50 人	普通作業員（山林砂防工）	4.25 人	諸雑費	15.0%			内部支持材	100.0 m ²			平割材	4.8 m ³			内部支持材（軽量鋼製枠複合式仕様）		SPHC-P、エポキシ樹脂カチオン電着塗装処理	0.44t/100 m ²	平割材 県産材（スギ）厚 45mm×幅 90mm L=4000mm	3.22t/100 m ²	(4.8 m ³ /100 m ² ×670kg/m ³ =3,216kg≒3.22t)		<p>（間伐材・四面落し材）を鋼材支柱に積み上げるように取り付けられた構造物をコンクリート型枠として利用する工法をいう。</p> <p>② [略]</p> <p>③ 設置歩掛（100 m²当たり） 撤去歩掛（100 m²当たり）</p> <table border="0"> <tr> <td>土木一般世話役</td> <td>1.70 人</td> <td>土木一般世話役</td> <td>0.85 人</td> </tr> <tr> <td>型枠工</td> <td>3.40 人</td> <td>型枠工</td> <td>1.70 人</td> </tr> <tr> <td>普通作業員</td> <td>8.50 人</td> <td>普通作業員</td> <td>4.25 人</td> </tr> <tr> <td>押角材（間伐材）</td> <td>318.0 本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支保工鋼材</td> <td>100.0 m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>④ その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 水抜管は、木製型枠工の面まで設置するものとし、構造物の勾配に合わせて切断することとする。 横工において間詰工等を接合する場合（堤体と同時打設するコンクリート間詰工を除く）の接合面は、堤体の木製型枠数量として計上することとする。 	土木一般世話役	1.70 人	土木一般世話役	0.85 人	型枠工	3.40 人	型枠工	1.70 人	普通作業員	8.50 人	普通作業員	4.25 人	押角材（間伐材）	318.0 本			支保工鋼材	100.0 m ²		
土木一般世話役	2.40 人	土木一般世話役	1.20 人																																																		
型枠工	4.50 人	型枠工	2.25 人																																																		
普通作業員（山林砂防工）	8.50 人	普通作業員（山林砂防工）	4.25 人																																																		
諸雑費	15.0%																																																				
内部支持材	100.0 m ²																																																				
平割材	4.8 m ³																																																				
内部支持材（軽量鋼製枠複合式仕様）																																																					
SPHC-P、エポキシ樹脂カチオン電着塗装処理	0.44t/100 m ²																																																				
平割材 県産材（スギ）厚 45mm×幅 90mm L=4000mm	3.22t/100 m ²																																																				
(4.8 m ³ /100 m ² ×670kg/m ³ =3,216kg≒3.22t)																																																					
土木一般世話役	1.70 人	土木一般世話役	0.85 人																																																		
型枠工	3.40 人	型枠工	1.70 人																																																		
普通作業員	8.50 人	普通作業員	4.25 人																																																		
押角材（間伐材）	318.0 本																																																				
支保工鋼材	100.0 m ²																																																				

治山設計技術等細部基準（公表用） 新旧対照表

改正後	改正前				
<p>⑤ 型枠材料の運搬経費を計上する場合は、直接工事費として計上する。</p> <p>⑥ その他</p> <p>1) 水抜管は、木製型枠工の面まで設置するものとし、構造物の勾配に合わせて切断することとする。</p> <p>2) 横工において間詰工等を接合する場合（堤体と同時打設するコンクリート間詰工を除く）の接合面は、堤体の木製型枠数量として計上することとし、型枠材を撤去して接合するものとする。</p> <p>3) 平割材は「とちぎ木材利用促進方針」に示す「栃木県産木材」とし、平割材の長さの寸法は、仕様寸法以上かつ施工に支障のない範囲のものとする。</p>	<p>ととし、型枠材を撤去して接合するものとする。</p> <p>3) 押角材は、「県有施設の木造化に関する基準」に示す「栃木県産出材」とし、「基準の運用」に準拠したものとし、押角材の長さに対する規格値は、+10mm～-0mm とする。</p> <p>⑤ 設置数量（100 m²当たり）</p> <table data-bbox="1182 555 1635 638"> <tr> <td>押角材（間伐材）</td> <td>318.0 本</td> </tr> <tr> <td>支保工鋼材</td> <td>100.0 m²</td> </tr> </table> <p>⑥ 資材規格及び重量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支保工鋼材 黒皮品 936 kg/100 m² ・押角材（間伐材） スギ栃木県産出材 10.5×10.5 cm 長さ 3.0m 7,030 kg/100 m² (7,034.99 kg=0.105m×0.105m×3.00m×317.46 本×670 kg/m³) <p>⑦ 型枠材料の運搬経費を計上する場合は、直接工事費として計上する。</p>	押角材（間伐材）	318.0 本	支保工鋼材	100.0 m ²
押角材（間伐材）	318.0 本				
支保工鋼材	100.0 m ²				

治山設計技術等細部基準（公表用） 新旧対照表

改正後	改正前															
<p>4. 治山ダム放水路・流路工標準断面の決定 【略】</p> <p>5. 治山ダム (1)～(8) [略]</p> <p>(9) 鉛直打継 ① 構造 別冊 P47～48 のとおり。</p> <p>② 伸縮継目 瀝青繊維質厚 10 mmを標準とし、材料費を計上する。</p> <p>③ 型枠 1)鉛直目地型枠を使用する場合（同時に打設する場合） ・設置歩掛（100 m²当たり）</p> <table border="0"> <tr> <td>土木一般世話役</td> <td>2.20</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>型枠工</td> <td>4.20</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>普通作業員（山林砂防工）</td> <td>7.70</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>諸雑費</td> <td>15.0</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>内部支持材</td> <td>100.0</td> <td>m²</td> </tr> </table> <p>※諸雑費率は、組立支持材（セパ鉄筋）及び電気ドリル、電動ノコギリ損料、電力に関する経費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額とする。</p>	土木一般世話役	2.20	人	型枠工	4.20	人	普通作業員（山林砂防工）	7.70	人	諸雑費	15.0	%	内部支持材	100.0	m ²	<p>4. 治山ダム放水路・流路工標準断面の決定 【略】</p> <p>5. 治山ダム (1)～(8) [略]</p> <p>(9) 鉛直打継 ① 構造 別冊 P47～48 のとおり。</p> <p>② 伸縮継目 瀝青繊維質厚 10 mmを標準とし、材料費を計上する。</p>
土木一般世話役	2.20	人														
型枠工	4.20	人														
普通作業員（山林砂防工）	7.70	人														
諸雑費	15.0	%														
内部支持材	100.0	m ²														

治山設計技術等細部基準（公表用） 新旧対照表

改正後	改正前
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資材規格及び重量 内部支持材（鉛直目地型枠仕様） SPHC-P、エポキシ樹脂カチオン電着塗装処理 1.11t/100 m² 2) 普通型枠を使用する場合（交互に打設する場合） ・ 設置歩掛 森林整備保全事業標準歩掛 第2編治山 第2 治山ダム工 2-1-8 型枠工による 	